

教職 10 年経験者研修授業研究会

(1) 単元名：面積

(2) 本時の目標：既習事項を活かし、複合図形の面積を工夫して求めることができる。

今年度、近隣校の奥間小学校から赴任してきた。前任校でも学びの授業をテーマに校内研修を積み重ね、本校でも1学期から積極的に教室を公開し、今回は2回目の授業研究会である。

10年経験者ということで、研究主任をまかせられ研修の企画・運営や、放課後のプチ研等に積極的に参加し、新境地での新たな出会いの中で、同僚や子ども達とともに学びの共同体の理念の学校創り、授業改革に向かい合っている。

本日は、村の指導主事と地区教育事務所の主事を招聘しての授業研究会である。



☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

【授業前】



授業開始10分前に教室に行ってみた。友達とおしゃべりしている仲間、本を読んでいる仲間、私の姿を確認すると、何の躊躇もなくすぐに「抱っこして～」と飛び込んでくる子じつにほんわりした自然体である。



教室は様々な個性が共存する社会であり、その一人ひとりの個性は最大限に尊厳されなければならない場

である。「わたしが私らしく」「ぼくが僕らしく」が当たり前でなければならない。学校はそもそも、これから未来へ向かう子ども達が健やかに育つ場所であることが大原則である。学校の良し悪しは、教師にとって都合のいい学校ではなく、学校の主人公であるこの子ども達が主役になって決めることである。


屈託のない笑顔、素直な応答、無邪気な行為(行動)、教室が最高に楽しいという女の子たち、仲間同士の関係がよく、安心して身を置くことのできる自分の居場所になっていることに担任への感謝が募る。

【本時の共有課題】 L字型の変形図形の面積を求める。



写真①、本時の最初のご馳走が提示された授業者は、子どもの言葉を拾いながら、解答への見通しを持たせる。授業開始から6分後グループでの解決にあずける。



写真②、子ども達がグループで解決している間にさりげなく、の資料を提示する。後は、子ども達の「学び愛」を信じてじっくり見守り、ケアを心がけて観察する。

【共有課題の学び合い】 ワークシートが各々に配布される。



できそうな子どもは、まずは自分でやってみたい。夢中になって問題に向かい合う。「わからない仲間」は、友達の様子をうかがいチャンスを見計らって「訊く」が向けられる。



「なんで?」「どういう意味?」躊躇なく「きき合う」。訊かれたらみんなで支え合う(写真③④)。

ここでのグループでの活動は、個人作業の協同化である。各々が個人のワークシートを持ち、それぞれの

考えで解決(探究)に向かい、そのプロセスの中で中間の「分からない」が仲間にも共有され、弱い仲間をみんなで支え合う「支持的風土」の中で解決されていく活動の時間である。

協同活動にもいろいろな目的や形態があるが、学び合いにおけるグループ活動は「話し合い」でもなく、「教え合い」でもなく、「きき合う」である。分からないことを訊き、じっくり教えてあげるので、各グループとも、活発で明るいのではなく、実にぶつぽつぽつと進行する。



【問題①の共有】 子どもの解答例を3つ取り上げて確認する。

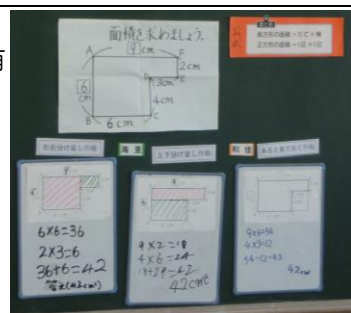
授業者は、次のジャンプ課題に時間をたっぷり準備したいため問題①の共有は、授業者が預かった。やわらかい言葉で子どもの意図を整理する。



《右写真、子ども達の解答例》

1. 上下分けたしの求積
2. 左右分けたしの求積
3. あると見てひき算での求積

グループでまとめさせたのではなく、各々の考え方を取りあげている。



[ジャンプ問題]

《ジャンプ問題について》

1. 単元や本時に対応した応用や活用問題
指導書の活用問題・県 web・市販の中学校入試問題等から
2. できそうでできない問題
みんなが協力する必然性のあるレベル
「もがき」があり、「夢中」になれる問題
3. 時間内でできることを想定しない(大胆に出題)
授業においては 10~15 分程度を目安にしたい
4. 問題提示のタイミング
基本的には授業の終末(15分程度)
授業デザインによっては最初から提供する
5. 休み時間、放課後、宿題へつなぐ



翌朝の黒板に解答を提示、家庭学習帳で確認等

さて、本時の問題のレベルはどうであったらうか?⇒子どもたちの実態から担任が判断する。



左写真、ジャンプ問題に飛びつく子ども達。子ども達は、簡単な問題より、簡単でない難しい問題に夢中になる。簡単だと一人でやって「ハイ終わり」早く正確にできただけが問われてしまうことになる。脳を活性化させ思考を深めるためにもやはり一人では簡単にはできない「難しい問題」が必要となる。これは問題が



難しいため仲間と「訊き合う必然性」が生まれ、仲間とつながり、協同することが不可欠な環境をつくることになる。さらに、共有課題で基本的な意味が理解されていなかった子ども達にとっては、ジャンプ課題の解答へのプロセスの中で基礎的理解を促すことになることも多々ある。

[支え合う]



「教えて〜」、分からない仲間に寄り添う。仲間は、決して仲間を見捨てない。どこの教室にもいる困った友達を必死に支えようとする仲間。彼に必要な言葉、彼に必要な道具を使って一緒に考えてあげている女の子。学び合う教室の中で私の頬が一番緩むときである。素敵な関係!

【共有する②】 授業者はジャンプ問題の解答例を2名指名した。

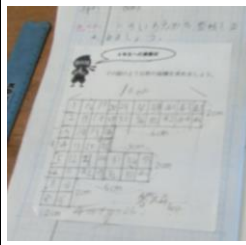


教材提示装置でDTVに投影させ説明を促した。自分の言葉で、どうにかして自分の考えを伝えたい
写真⑤、友達の発表をしっかりと聞いてあげる仲間
「きき合う」は学び合う教室の基本である。聞いてあげる仲間と教師に支えられるのが学び合う教室である。



写真⑤

[1枚の写真] この子の「もがき」がわかるだろうか。ぜひ取り上げたかった



《地区主事より》・課題提示、問題提示のあり方について。

- ・発表の後の評価の確認、授業の中での変容を見る。
- ・ノート指導は行き届いているが、間違いもノートに残す習慣をつけさせたい。
- ・グループ活動の在り方について、考えをまとめる作業について。

Y・M先生ありがとうございました。新天地での不安や疑念は少し晴れましたか?同じ「学び」をやっている、学校が変わり、同僚が変わり、子ども達が変わると…って感じですか?大切なことは状況や環境の変化に順応できる「変わる自分」を持つことです。素敵な授業ありがとうございました。

国頭学びの会ゆい